

高齢社会活動の先行的事例

◎「未来都市構想」内閣府

◎「RISTEX 15プロジェクト」

◎プラチナ大賞

◎「RISTEX コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」
15プロジェクト

<http://www.ristex.jp/korei/>

高齢社会領域について 研究開発領域の目標

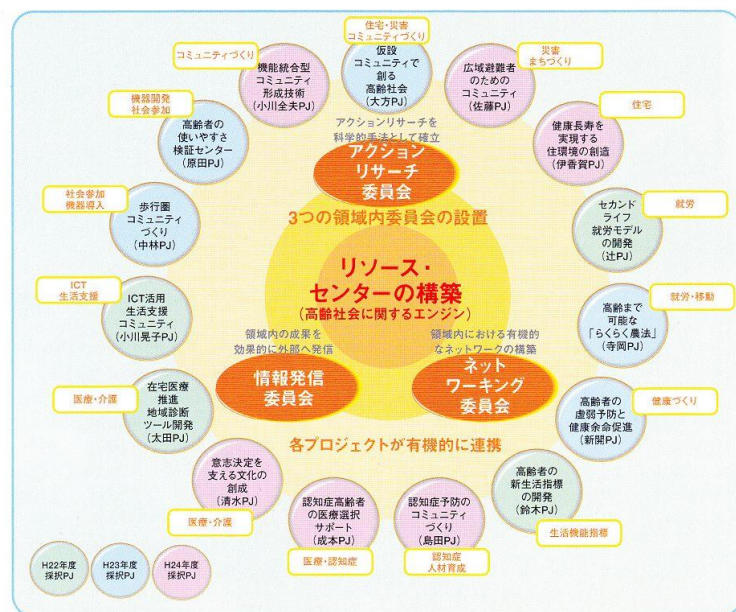
(1) 高齢社会に関わる問題について、地域やコミュニティの現場の現状と問題を科学的根拠に基づき分析・把握・予測し、広く社会の関与者の協働による研究体制のもとに、フィールドにおける実践的研究を実施し、その解決に資する新しい成果（プロトタイプ）を創出します。

(2) 高齢社会に関わる問題の解決に資する研究開発の新しい手法や、地域やコミュニティの現場の現状と問題を科学的に評価するための指標等を、学際的・職際的知見・手法に基づき体系化し提示するための成果を創出します。

(3) 本領域の研究開発活動を、我が国における研究開発拠点の構築と関与者間のネットワーク形成につなげ、得られた様々な成果が、継続的な取り組みや、国内外の他地域へ展開されることの原動力となること、また多世代にわたり理解を広く促すことにつなげます。

●地域やコミュニティの現場について：行政区、学区等に限らず、共通の目的、価値に基づいて活動する人々の集まりや、企業、コンソーシアム等の団体、関連する職種等のコミュニティに関わる現場も対象とします。

平成22年に4、平成23年に5、平成24年に6の3年間で15プロジェクト（右図）を採択。



R I S T E X 平成25年度
コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン
第3回領域シンポジウム

平成26年2月11日 火・祝
13:00-18:00
日経ホール



基調講演 「日本「再創造」 —活力ある長寿社会へのイノベーション—

小宮山宏 株式会社三菱総合研究所理事長/プラチナ構想ネットワーク会長/東京大学総長顧問
月刊丈風 2014年5月号 [R I S T E X - 1](#)

「研究開発領域について」

秋山弘子 (領域総括 東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)

月刊丈風 2014年5月号 [R I S T E X - 2a](#)

秋山でございます。ご参加いただいた方のリストを拝見しますと、関東近辺ばかりでなく、北海道からまた九州・関西からもお出でいただきまして、まことにありがとうございます。



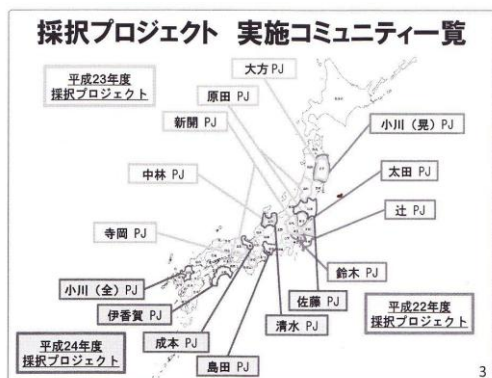
小宮山先生から21世紀の課題といわれております環境の問題、人口の高齢化の問題、人類史の転換期にある今日、どういう戦略をとるべきであるかということについてのお話をいただきました。これからわたくしどもの助成しておりますプロジェクトの報告にはありますが、それに先立ちまして、この「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」の概要を簡単にご説明させていただきます。

この領域には、大きく分けて二つの目標がございます。

ひとつは、これから高齢者が3分の1になる時代がまいります。高齢者が増えることが問題なのではなく、みんなが元気で生産活動に従事できれば何の問題もないわけなのです。いかにして自立期間を長くし、アクティブに生活するか。社会の支え手になることをどのようにして実現するかということ。もうひとつは、みんながPPKでというのは現実的ではなくて、少し弱っても安心して快適に生活できるような社会を実現すること。大きくわ

けてこの二つの課題をコミュニティの中で洗い出して、それをコミュニティの中で研究し解決法を開発していくのが目標でございます。それを大学とか自治体だけではなく、関わる人たちがステークホルダーとして連携をしながら取り組んでいく。このふたつを条件にして、全国から公募いたしました。

3年にわけて図のような15のプロジェクト



を採択いたしました。平成22年度に4つ、この4つについては昨年を終了いたしましたので、3月7日に別のシンポジウムを設けて、今後の展開を含めてご報告する予定にしております。

23年度の5つ、24年度の6つの11のプロジェクトのご報告を、きょうこれからさせていただきます。

選考に関しましては、あらかじめ高齢者の健康度、元気な方から虚弱な方までを留意した上で、ハードのインフラだけではなく、社会の制度しくみのソフトの面、その両方を軸として見直しを解決していかなければいけない。高齢社会でのさまざまな課題を設定した上で、なるべく網羅する形でプロジェクトを選考いたしました。

北海道を除いて各地にフィールドがございます。たびたびサイトビジットをしておりますが、実際にこのような形で活動が進行しております。

進めるに当たって三つの「領域内委員会」を設定しています。

ひとつは「アクションリサーチ委員会」です。

これに関してはかなり議論をしましてまいりました。

コミュニティにおけるアクションリサーチを科学的な研究方法として確立すること。かなり頻繁に委員会を開いておりまして、目標としましては、アクションリサーチの入門書の出版をするための執筆をしています。これによって論文が書ける。さらに審査する側の方にも研究方法として広く知っていただくために入門書の出版を予定しております。

次に「情報発信委員会」です。これはプロジェクトでえられた成果を、コミュニティづくりの課題解決のプロセスとして克明に記述してそれを伝えていく。うまくいくところ、うまくいかないところがあるわけですが、それを解決するプロセスを詳細に記録して、現場にきて見学していただくだけではなく、これからまちづくりをする方たちに共有できる形で発信していこう。ということで、「情報発信委員会」のフォーマットにもとづいて記録して、近い将来、webから発信していこうと思っております。

もうひとつが「ネットワーク委員会」です。これについてはパネルディスカッションで議論をしたいと思っております。まずはわたくしどもの15のプロジェクトの有機的なネットワークをつくる。それと同時に、小宮山先生の「プラチナ構想ネットワーク」、村上先生が座長をしておられる内閣府の「環境未来都市」、そして東京大学の高齢社会総合研究機構でやっているまちづくりなど、組織的にまちづくりの課題を解決している同じような事業活動がたくさんございます。共通するものをネットワークして、「リソースセンター」をつくって、経験を共有し、成果をあつめて利用する「リビングラボ」につきましても、のちほど議論をさせていただくことにして、プロジェクトの報告に移らせていただきます。

コミュニティ×知る
新しい高齢社会のデザイン

領域内委員会について

- 1. アクションリサーチ委員会**
目的：領域総括・領域アドバイザーおよびプロジェクトメンバーが協働し、コミュニティにおけるアクションリサーチを科学的な手法として確立する
進捗：これまで14回の委員会を開催。文献整理、外部有識者による講演等を実施。アクションリサーチの入門書の出版(東京大学出版会)に向けて作業中。
- 2. 情報発信委員会**
目的：領域内における情報共有のあり方、ならびに領域の成果をより広く、より効果的に社会に展開していく情報発信のあり方を検討する
進捗：これまで5回の委員会を開催。プロジェクト一般化のための情報整理フォーマットを作成し、各プロジェクトに記入を依頼。
- 3. ネットワーキング委員会**
目的：領域内のプロジェクト間の有機的なネットワーク、また領域と他の取り組みとのネットワークの構築を目指す。

↓

コミュニティの高齢化課題解決リソースセンター構築を目指す

パネルディスカッション

フロアとの意見交換

「コミュニティの高齢化課題解決リソースセンター」構築に向けて

◎進行

秋山弘子（領域総括 東京大学高齢社会総合研究機構
特任教授）

◎パネリスト

村上周三（一般財団法人建築環境・省エネルギー機構理
事長）

斉藤徹（株式会社電通電通総研消費者研究部部長）

井上剛伸（領域アドバイザー／国立障害者リハビリテーションセンター研究所福祉機器開
発部部長）

木村清一（地域アドバイザー／東京大学高齢社会総合研究機構学術支援専門職員／元柏市
保健福祉部長）

関根千佳（地域アドバイザー／株式会社ユーディット会長兼シニアフェロー／同志社大学
政策学部・大学院総合政策科学研究科教授）



月刊丈風2014年3月号 [RISTEX2](#)

15プロジェクトについて 数字は採択平成年

- *22 「新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発」 鈴木隆雄
- *22 「在宅医療を推進する地域診断標準ツールの開発」 太田秀樹
- *22 「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」 小川晃子
- *22 「セカンドライフの就労モデル開発研究」 辻哲夫

月刊丈風2014年5月号 [RISTEX-5](#)

- *23 「社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり」 中林美奈子
- *23 「「仮設コミュニティ」で創る新しい高齢社会のデザイン」 大方潤一郎
- *23 「高齢者の虚弱化を予防し健康余命を延伸する社会システムの開発」 新開庄二
- *23 「高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発」 寺岡伸悟
- *23 「高齢者による使いやすさ検証実践センターの開発」 原田悦子

月刊丈風2014年5月号 [RISTEX-2a](#)

- *24 「高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成」 清水哲郎 敬称略
- *24 「認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発」 成本迅
- *24 「認知症予防のためのコミュニティの創出と効果検証」 島田裕之
- *24 「健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造」 伊香賀俊治
- *24 「広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成」 佐藤滋
- *24 「2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術」 小川全夫

月刊丈風2014年5月号 [RISTEX-3a](#)

R I S T E X 平成26年度
コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン
第4回領域シンポジウム

平成27年3月6日 金
10:00-17:45
よみうり大手町ホール



◎研究開発領域について

秋山弘子 領域総括

東京大学高齢社会総合研究機構特任教授

月刊丈風2015年4月号 [R I S T E X平成26年度](#)

15プロジェクトについて 数字は採択の平成年度



- *22 「新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発」 鈴木隆雄
- *22 「在宅医療を推進する地域診断標準ツールの開発」 太田秀樹
- *22 「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」 小川晃子
- *22 「セカンドライフの就労モデル開発研究」 辻哲夫

紹介 [月刊丈風2015年3月号](#) [ristex平成26年度](#)

- *23 「社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり」 中林美奈子
- *23 「「仮設コミュニティ」で創る新しい高齢社会のデザイン」 大方潤一郎
- *23 「高齢者の虚弱化を予防し健康余命を延伸する社会システムの開発」 新開庄二
- *23 「高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発」 寺岡伸悟
- *23 「高齢者による使いやすさ検証実践センターの開発」 原田悦子

紹介 [月刊丈風2015年3月号](#) [ristex平成26年度](#)

- *24 「高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成」 清水哲郎 敬称略
- *24 「認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発」 成本迅
- *24 「認知症予防のためのコミュニティの創出と効果検証」 島田裕之
- *24 「健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造」 伊香賀俊治
- *24 「広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成」 佐藤滋
- *24 「2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術」 小川全夫

成果報告 [月刊丈風2015年4月号](#) [R I S T E X平成26年度](#)